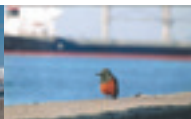
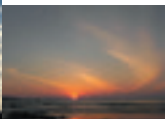


第4回
瀬戸内・松山
写真俳句
コンテスト
受賞作品集

主催 松山市・朝日新聞社・朝日カルチャーセンター





撮影地：神奈川県 自宅ベランダ

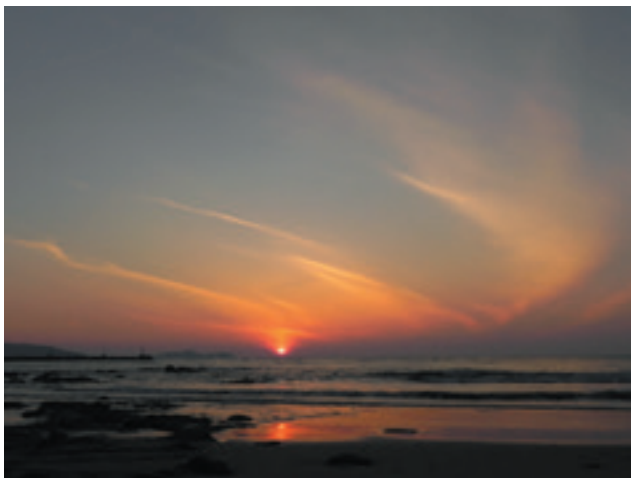
自由句部門
最優秀賞

神奈川県 中村 徹

海つて落ちた空なんだよねと子が仰ぐ

福岡県 宗澤美子

鯨喰ふ世代のうたふ反戦歌



撮影地：福岡県遠賀郡芦屋町柏原

埼玉県 雪井苑生

鍵かけて鍵捨てにゆく冬の海



撮影地：鎌倉市稲村ヶ崎

愛媛県 渡辺 瀑

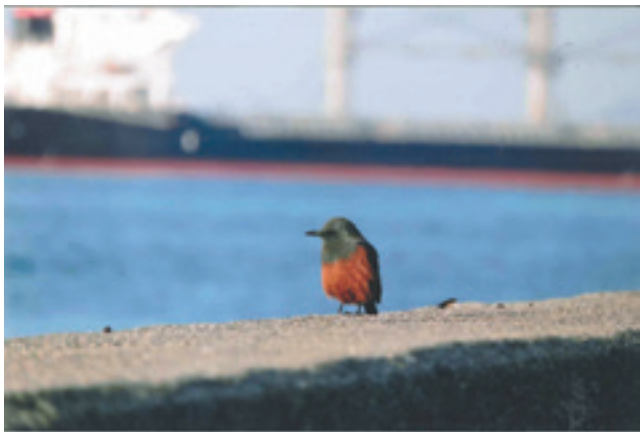
若駒のおこせる風の一マイル



撮影地：高知県入野松原

愛媛県 神楽坂リンダ

春近し海を見ながら飲むペリエ



撮影地：国領川河口

愛媛県 日暮屋又郎

あれ以上は恐かった遠泳の黒い雲



撮影地：石垣島

神奈川県 吉田誠一
故郷や遠い日向の波の音



撮影地：いわき市平豊間

東京都 溝口ゆう菜
重ね着て漁父に朝の決まり事



撮影地：秋田県象潟

東京都 溝口健一
雪ざれて問えば番屋は口閉ざし



撮影地：秋田県能代港

愛媛県 松本だりあ
しよっぱい顔して少年の夏終る



撮影地：今治市大西鴨池海岸

愛媛県 野本みさき
日焼けした君の背眺めて恋い焦がれ



撮影地：三津浜の漁船

愛媛県 宇都宮綾人
島々に日あたりながら暮の秋



撮影地：三津浜

愛媛県 形岡 晃
そぞろ寒錆びた錨の脆さかな



撮影地：愛媛県松山市

茨城県 打越 榮
帆を上げて積みし初荷の重きかな



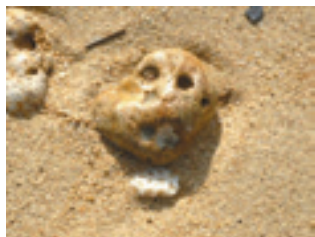
撮影地：茨城県大洗港

愛媛県 上村扶佐子
海猫に甘え教ふる人間の罪ひと



撮影地：青函フェリー甲板にて

埼玉県 水江健治
汗落ちて生きてる証砂に記す



撮影地：西表島

大分県 岩本梨沙
長閑さや昨日の喧嘩なしにする



撮影地：美ら海水族館

神奈川県 所 健一
夕風や夫より微か加齢臭



撮影地：八景島シーパラダイス

愛媛県 高橋 徹
地球凍て太古の記憶甞醒す



撮影地：松山市下難波 モンチッチ海岸

北海道 黒田美貴
海を越えられぬ車輪の灼けてをり



撮影地：南アフリカ・ロベン島

愛媛県 大森慎太郎
海鳥も襟たてポケット手をしまつ



撮影地：しまなみ海道沿いの堤防

愛媛県 桜井教人
夏雲や我に一本芯がある



撮影地：松山市大浦

愛媛県 松本だりあ

海へ帰りたき恐竜の骨の秋



課題写真：松山市 安居島の北側の海岸

愛媛県 阿部千鶴美

父祖の地のここに始る蜜柑山



課題写真：松山市 斎灘、興居島を前にする柑橘農園風景

埼玉県 長戸康孝

自転車の数だけ恋のある五月



課題写真：今治市 しまのわサイクリング、フェリーにて

滋賀県 小見伸雄

夕焼や我ら亜細亜の端に生き



課題写真：松山市 松山空港滑走路

愛媛県 若狭昭宏

漁礁より光散りたる終戦日



課題写真：松山市 二神島沈んだ船



写真①
入賞作品

香川県 田岡 弘
電天に登る気配の浜辺かな

静岡県 柳谷益弘
オリオンの星屑ひとつ残りけり

千葉県 渡会克男
春波瀟流木龍になる旅路

広島県 竹内昭美
遠浅に夏を残してVサイン

福岡県 一宮正博
台風が渚にひとつ置き土産

埼玉県 井上寿郎
流木の旅の記憶や春の潮

東京都 長峯 雄平
蒼天のガキ大将や蜜柑食う

東京都 村上ヤチ代
春昼の砂踵より踏込めり

群馬県 今野涼人
砂浜の歴史に枯れ木流れ着く

愛媛県 松山周一
初めての父が隣に居ない夏

愛媛県 大石敬朗
万里飛ぶ蝶もなごりの渚かな

東京都 鮎川郁夫
雁風呂に浸かり供養の真似をする

埼玉県 長戸康孝
砂浜に置き去りにした夏の恋

埼玉県 藤田昇
流木や果てなくつつく波の秋

愛媛県 木多恵美
潮騒の残る靴底桜貝

新潟県 荒井千代子
流木は馬のかたちや磯遊

栃木県 森 青菊
海原へつつく昼顔通し土間

愛媛県 富水酒洛
流木に明治の記憶秋の浜

京都府 八朔良一
冬隣吾は何処に流れ着く

東京都 高橋嘉恵
風を待ちあの人を待つ蜃気楼

愛媛県 大塚迷路
リュウクウツカイゆらり夏ゆけり

愛媛県 江戸 幸子
龍骨の打ち上げられて神無月

北海道 黒田美貴
ゆび先の冷し待つといふことは

新潟県 橋立英樹
サンダルの指の先まで蒼い波

岡山県 古城英男
流れ来る者にもやさし瀬戸の春

北海道 高橋まりえ
久方に嫁の来るらし春の波

神奈川県 山本浪子
流れ来し終の住処や実朝忌

奈良県 水谷あづさ
ロビンソンクルーソーめく夏休み

富山県 満保千里
引いてゆく波の速さよ桜貝

愛媛県 桜井教人
水母殖ゆ伊予と安芸との境なく

兵庫県 宮当正代
流木も島の一員春うつらら

埼玉県 畑中友樹
潮騒や過去へいざなう冬の浜



写真② 入賞作品

兵庫県 岸野孝彦
潮騒や蜜柑投げたる人は亡き
香川県 田岡 弘
撓なる蜜柑や島は指呼の距離
千葉県 渡会克男
もく人も蜜柑に似たり海の音
東京都 溝口健一
冬の陽の二つひとつを掌に包む
広島県 竹内照美
初恋を残した島にみかん熟れ
福岡県 一宮正博
蜜柑狩三兄弟の別れの日
愛知県 斉藤浩美
潮騒は子守歌めく冬ぬくし
東京都 長峯雄平
はつなつや君は今でも君のまま
栃木県 森青菊
初巫の島や帰農の肩りりし

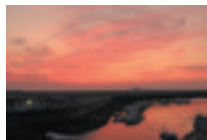
福島県 赤城和嘉子
みかんのみひとつひとつに神がいる
愛媛県 大石敬朗
小春日や島のトンビは太り過ぎ
福岡県 徳勝有紀
小缺の音に伊予柑積み上げり
兵庫県 西田 建
ことごとく海に向きたり蜜柑畑
愛媛県 松浦昭一
海ありて蜜柑育む光りあり
愛媛県 西川則孝
海風の撫でて初成り蜜柑かな
大阪府 瀬戸順治
島遠く蜜柑の海を渡りけり
北海道 黒田美貴
冬ぬくし島に帰るといふ手紙
愛媛県 馬越貴英
潮風に蜜柑の香あり斎灘
愛媛県 羽倉拓摩
瀬戸内の血の流れたる夏蜜柑
愛媛県 川又 夕
王国を駆けてきらきら蜜柑もぐ
石川県 酒井和平
航跡をつなげば島の星座めく

愛媛県 矢川ふつき
風花や汽笛にひらくみすゞ集
愛媛県 日暮屋又郎
都こんぞナンバすてアアの目なほ
大阪府 打浪紘一
蜜柑映ゆ海と島とを従えて
奈良県 水谷あづさ
故郷を問へば蜜柑の島と言ふ
愛媛県 明比あおい
波の音あつめ色付く密柑山
愛媛県 山内秀紀
伊予柑を三つ持たせて島離る
愛媛県 渡部伴子
待春の光抱きて誰を待つ
東京都 山中光春
独立の機熟しけり密柑山
愛媛県 伊藤修一
方言で一期一会の島遍路
愛媛県 岡部正彦
この島を守る生業蜜柑摘む



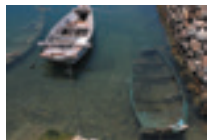
写真③ 入賞作品

- 静岡県 柳谷益弘
夏合宿腹むき出してごろ寝する
- 千葉県 小田中準一
子守唄聞けば海路の眠りかな
- 福岡県 一宮正博
午睡する内に運ばれ着く港
- 埼玉県 井上寿郎
銀輪や集ふ仲間の子三尺寝
- 東京都 長峯雄平
それぞれの母を想うや日向ぼこ
- 愛媛県 松本だりあ
銀輪の夢は外国夏の潮
- 茨城県 打越 榮
島と島人と人とを結ぶ夏
- 愛媛県 大本和彰
瀬戸の秋戦い終えて日が暮れて
- 愛媛県 山内真穂
船に乗る客は自転車台風過
- 神奈川県 鈴木栄次
神奈川島 水なきが如く気ままにアメンボウ
- 神奈川県 野村昌弘
神奈川島 春眠も欠伸も徐々に感染し
- 兵庫県 中島勝之
銀輪の憩ふフェリーや風光る
- 静岡県 永田政己
自転車もお昼寝しててる昼下がり
- 兵庫県 西田 建
兵庫島 冬風に銀輪送り届けたり
- 福岡県 徳勝有紀
自転車に傷重なるや夏の波
- 広島県 熊丸幸代
島駆けるサイクリストに秋うらら
- 大阪府 井上英一
ツーリング終えて春風ひと眠り
- 大阪府 瀬戸順治
春眠の自転車たちを起こさねば
- 愛媛県 益田公正
銀輪も船で休息風光る
- 愛媛県 馬越貴英
冬の船主人も自転車も眠る
- 東京都 鈴木啓史
自転車の数多寝そべり冬の海
- 東京都 本田しおん
シエスタで島への夢を膨らませ
- 愛媛県 矢川ふづき
子は島に着いたか蜜柑酸っぱいか
- 愛媛県 八塚陽向
冬の雨渋滞しているのは心
- 岐阜県 森 瑞穂
夏負けや一方通行の恋に
- 愛媛県 桜井教人
乱雑に漕ぐ夏潮のごとく漕ぐ
- 東京都 福岡 悟
さみだるトミノ倒しのマウンテン
- 愛媛県 和田新太郎
船便は暮らしの時間燕来る
- 大阪府 東 敬朗
一夏の体験旅行島巡る



写真④
入賞作品

- 東京都 田島映子
ふたり見た空を一人の秋の川
- 愛媛県 大石敬朗
儂きはジヨパンニの夢夏祭り
- 福岡県 宗澤美子
鉄よりも冷たき掌に在る法典は
- 佐賀県 古賀由美子
逢いたくて逢いたくて春羽広げ
- 兵庫県 岸野孝彦
紫電改今は昔の晩夏かな
- 愛知県 井深靖久
カラス鳴く空にザヨナラ夏休み
- 千葉県 小田中準一
夕焼けや母を想えば母の色
- 福岡県 一宮正博
夕焼の中を帰るかあの頃へ
- 埼玉県 井上寿郎
大西日朱色の絵の具使ひ切る
- 愛知県 斉藤浩美
子規の地の離陸着陸海灼くる
- 愛媛県 松本だりあ
出奔の決意の鈍り秋夕焼
- 愛媛県 森田千恵子
数へ日の不戦の国へ着陸す
- 東京都 羽生広
夕焼けから着陸のたび少し死ぬ
- 東京都 本田しおん
テイク・オフ柑橘色の詩人なる
- 愛媛県 矢川ふづき
海底にねむる零戦鳥渡る
- 岐阜県 森 瑞穂
小説は未完のままに夕焼けぬ
- 大分県 上田 望
松山発夕焼行の滑走路
- 愛媛県 亜桜みかり
冬茜喫水線はキリトリセン
- 兵庫県 星野嘉邦
片思い乗せて小さな星となり
- 愛媛県 寺町弘文
夕焼の一機ふわりと抱きけり
- 北海道 柳元佑太
北海道 柳元佑太
- 京都府 八朔 良一
大夕焼帰る古里失くすとは
- 神奈川県 長村貴之
立つ鳴の尾は曙光へ伸びて消ゆ
- 北海道 黒田美貴
定刻に着くらし大根煮含めん
- 神奈川県 山本 浪子
故郷へ半身赴任大夕焼
- 千葉県 久我久義
寒夕焼立志の思ひ忘るるな



写真⑤
入賞作品

岐阜県 板垣道代
受験子の機嫌良き日と悪き日と

岐阜県 森 瑞穂
人の世に浮き沈みある秋の暮

千葉県 阿部圭吾

神奈川県 箱崎美月

素足にて沈みし船の苔ぬぐう

隠したい事もありけり冬はじめ

愛媛県 瀧本雄二

茨城県 大槻けい

海賊の夢の後かな魂鎮め

夏ぼうし宝探しに行ったきり

愛媛県 富永洒落

東京都 福岡 悟

時雨るるや名無し港に沈む舟

短日や人間なんて朽ちるのみ

静岡県 小宮 里

愛媛県 渡部伴子

冬枯れや謂れ聞きたき捨て小舟

寒行の一心不乱神の島

北海道 柳元佑太

大阪府 木村達雄

沈むとは海となること夏の暮れ

水温む太公望の待ちぼうけ

大阪府 瀬戸順治

愛媛県 岡部知之

水澄みて沈む小舟の中に魚

漁師舟親子三代春を待つ

愛知県 久喜聖子

愛媛県 岡部知之

旧姓に戻りし友の年賀状

東京都 鶴巻貴代美

この島は終の住処や終戦忌

愛媛県 川又 夕

愛媛県 木村達雄

龍淵に潜みてオールより朽ちる

愛媛県 日暮屋又郎

澄み切った目に穴子何を諦めた

愛媛県 矢川ふづき

台風一過猫は朝日へ伸びをして

佐賀県 古賀由美子

昼寝覚時の彼方へ置いた夢

愛知県 井深靖久

百船にひとつやふたつ夏休み

静岡県 柳谷益弘

浮き沈み承知している冷奴

福島県 宇野邦久

ながながと昔話や秋彼岸

東京都 溝口健一

遊漁には思案有り無し夏の果て

奈良県 和田 康

修行きて海の芥となりにけり

熊本県 貝田ひでを

靴の番母に任せて磯あそび

愛知県 斉藤浩美

人生に浮上りくたび漁始

東京都 長峯雄平

泥舟の理や何処春の海

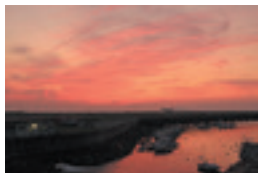


driftwood:
the way an old dog settles his chin
on your knee

United States of America
Sheila K. Barksdale

直訳
流木：
老犬の 君の膝に 顎乗せるが如く

アメリカ合衆国
シラー・K・バークスデール



airport sunset
cherry notes
in the sake

United States of America
Deb Koen

直訳
空港の夕日
酒の中に
桜がにじむ

アメリカ合衆国
デブ・コーエン

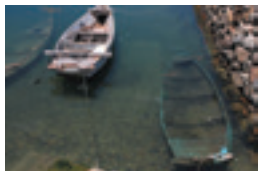


Life goes on
though my bike isn't here
spring breeze

Japan (Aichi Prefecture)
Yukiko Yamada

直訳
私の自転車あらずとも
人生は行く
春の風

日本（愛知県）
やまだ ゆきこ



Part-time job
wearing a pirate's skull cap
sunken boats

China
Peng Liu

直訳
アルバイト
海賊帽を被りおり
沈みたる舟

中華人民共和国
ペン・リユー

第4回 瀬戸内・松山 写真俳句コンテスト

写真と俳句を組み合わせた「写真俳句」作品のコンテストです。

募集内容は、写真も俳句もオリジナル作品で応募する【自由句部門】、5点の課題写真のいずれかにオリジナル俳句で応募する【課題句部門】【英語俳句課題句部門】の3部門。【海を感じられるもの】を作品テーマに、平成26年10月～平成27年1月12日の募集期間に寄せられた作品は、『自由句部門』306点、『課題句部門』990点、『英語課題句部門』715点にのぼりました。

審査は、【写真俳句】の提唱者でもある森村誠一氏（作家）、夏井いつき氏（俳人）、デビッド・マクマレイ氏（国際俳人）、山口亜希子氏（俳句編集者）、キム・チャンヒ氏（俳句マガジン『100年俳句計画』編集長）の5名により行われました。

平成27年3月14日、松山市立子規記念博物館にて行われた表彰式には、全国より約250名が参加。森村氏のビデオレターを交えながら、夏井氏によって優秀賞作品それぞれの魅力が語られました。

